

単元名 3 言葉と向き合う 一言葉1 類義語・対義語・多義語

配当時間 2時間

単元の目標 (1) 類義語・対義語・多義語の概念について、具体的な例を当てはめて理解することができる。
 (3) 今までの学習を生かして、積極的に類義語と対義語、多義語な意味を表す語句などについて理解しようとする。

標準的な展開例

11210116_001

【準備等】国語辞典，類語辞典

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 対義語，類義語，多義語の意味に注目し，用法を理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 本時の学習課題をつかむ。 ★ 対義語，類義語，多義語について知ろう。 ○ 全文を読み，対義語，類義語，多義語の意味や用法を理解する。 ○ それぞれの練習問題に取り組む。 <p>2 いろいろな対義語，類義語を調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 本時の学習課題をつかむ。 ★ ある語についての対義語，類義語を調べよう。 ○ ある文章を類義語を用いて，書き直す。 <ul style="list-style-type: none"> ・ より改まった印象 ・ 小学生向け 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教科書の問題だけでは少ないので，練習問題を作成しておく。 【評】 対義語，類義語，多義語の練習問題に取り組む活動を通して，「知識・技能」を評価する。 ・ 特に類義語について，取り上げる。 ・ 国語辞典や類語辞典などを用意しておく。 ・ 教科書等から選んだ語でもよいし，教師側が提示した任意の語でもよい。 ・ 文章を用意しておく。 【評】 類義語を用い，文章を書き換える活動を通して，「知識・技能」を評価する。

【 備 考 】

短歌は，今日まで継承されてきた代表的な日本の伝統的言語文化の一つである。そのため伝統的な表現やものの見方と，新しい表現やものの見方が融合して，新しい世界を築いてきた。歌人でもある書き手に導かれながら，豊かな短歌の世界を味わわせたい。

また，短歌の学習を通して，生徒は日常の小さな経験や思いなどを繊細に表現する多くの言葉に出会えるだろう。その学習も生かしながら，自分たちの経験や思いなどをより明確に，相手に伝わるように言い表すことのできる言葉を考えさせたい。また，類語辞典等を活用しながら，和語の働きや差異などにも注目させたい。

言語活動としては，自分たちの経験や思いなどを微細に言い表すことのできる言葉を考えさせ，実際に短歌を作ることで，語彙感覚を磨かせるのに役立つことであろう。